

災息無病
福招災除

夏越祭



岡田宮

—(宝永四年)一七〇七 貝原益軒書—

岡田宮夏越祭 ごあんない

第41号

平成18年7月吉日
発行 岡田宮社務所
北九州市八幡西区岡田町1番1号
郵便番号 806-0033
電話 (093) 621-1898
FAX (093) 621-5330
E-mail okada.guu@yahoo.co.jp

明治天皇御製

国民もつねに心をあらはなむ

みもすそ川の清き流れに。

平成十八年七月二十九日(土)

午後六時〜九時
(雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。

大祓神事 午後六時より

どなたでも参加できます。参列の方には大祓詞をさしあげます。ふるってご参加ください。

当日ご参拝の方に

■「お札」と「茅」を授与いたします。

■無病息災・除災招福御神酒接待

■ご参拝の方に御神酒をご奉仕いたします。

■総当たり福引き・かき氷

地元青年会の屋台がたちます。いづれも一回100円

■アニメ上映



無料券

当日この券をご持参ください
福引き・かき氷のいづれか
1回が無料になります。

神社総代研修会

三月二十四日 快晴。

総勢三十名を乗せたバスは春の柔らかな陽射しの下、一路此の度の研修地であります八女郡黒木町鎮座、津江神社へと向いました。

バスに揺られること約二時間、到着した我々を迎えてくれたのは樹齢八百年余の大楠でした。樹高



四十米、枝張り東西四十三米・南北四十米の県指定の天然記念物であり、黒木町の町木でもある御神木。まさに圧巻。しばし頭上を眺めながら驚嘆に浸っておりました。まもなく井上宮司様、棚宜様のお出迎えを受け、津江神社拝殿に移動。御祭神の国土形成の神、伊佐那伎命・伊佐那美命二柱の大神の大前にて肅々と正式参拝を終え、続いて井上宮司様より御講話をいただきました。

この津江神社は以前、黒木町出身の元タカラジエンス、黒木瞳さんのお父様が総代会長をされておられ、その御縁で黒木瞳さんも幼少の頃よりよく参られたとのこと。その当時の思い出話も交えて有難いお話を聞かせいただきました。

その後、宮司様、棚宜様をお誘いして近くのなかばる観光農園に向かいました。そこは津江神社の総代さんが経営の、いちご狩りが出来、また食事所もある農園で、一同早速いちご狩り。たんまりとお土産を手にし、美味しい食事を堪能し、楽しい一時を過ごしました。

その後、宮司様、棚宜様と別れ一行は八女人形会館並びに八女伝統芸館へ。人形会館では豪華なお飾りを鑑賞し、八女伝統芸館では工芸の素晴らしさに触れま

した。最後にべんがら村に立ち寄り、お土産を買い込んだ後、少々心残りながらも時間の都合上バスに乗り込み一路黒崎へ。今年度の研修も大変楽しい中にも多々学ばべき内容の詰まった充実した研修であったと思います。今後の神社運営に活かしてまいりたいと思います。

郷土地名考

(41)

脇田(わいた)

脇ノ浦にならぶ漁港。脇に田があるから脇田ではダジャレに近い。漁師は無論、釣人にも常識だが北九州地方では、潮流が暗礁の都合で滞留するようなところを、ワイと呼んでいる。近くの逆水地名に見るように、干満に従って起こる関門海峡の潮流に対して逆流が起こるのが逆水で、本流と逆流の間にはワイが生まれる。脇田の海がこのワイに当たる。ワイ+接尾語タが脇田ではあるまいか。タは彼方、此方、道端のタである。

もうひとつはワイタという風の名。ワイタともワイダとも呼ぶが主に北東の強風を指している。

昭和62年(1987年)2月3日、建設中の白島洋上石油備蓄基地が大シケに襲われて防波堤が寸断、決壊した。これもシベリヤから吹く北東の暴風が引き起こす吹送波という激浪のためだ。

白島(しらしま)

日本書記に柴島、筑前国統風土記の解釈は「柴多く生ずる故に柴島」といしを後に転じて白島といけるにや。白と柴とその訓近ければなり。

白島海域は古来からの好漁場、いつから筑前の経済水域になっていったか。1558年(弘治4)、領主麻生家が脇田、脇ノ浦、柏原の漁業権紛争に下した判決文書がある。三ヶ年共同漁場、その後は脇田浦の専管漁場というわけだ。

また一説、1691年(元禄4)の古文書は、白島が長州藩領であったころ毛利元就回国の折、白島沖合に停泊したところ乗った船のイカリが根がかりして動かず、脇田浦の「くわい」という水泳選手がもぐってイカリを外した。感激した元就が、白島を「くわい」に下賜した。以後脇田浦に帰属。いま巨大な洋上石油備蓄基地建設が操業権を奪った。こんなはずではなかったと泉下の「くわい」は意外に思っているだろう。

日本人の一生

日本人は、人間というものは、自然の恵み、神々の生命の息吹を受けて誕生してくるものと考えてきました。日本の神話では天神の神意を受け、伊邪那岐命・伊邪那美命という造化の神が、日本の霊的な国土を生み、そこにあらゆる生命を生み出したことが記されています。そうした生命の一つとして人間（ひと）が誕生しました。

こうした生命をさらに充実し、よりよき生活を営むために、日本人の一生には年齢の節目ごとに神社にお参りをして、神々の加護を願い、その恵みに感謝する行事が数多く行われます。これらは人生儀礼、年祝いとも呼ばれています。

から 三歳・五歳・七歳の時には、七五三詣の行事が行われ、子供の無事成長を神社で祈願します。

人生の大きな節目として入学式、成人式の折にも神社でお祓いを受け、奉告祭が行われます。人生でもっとも晴やかなのが結婚式です。御神前で三々九度の盃を取り交し、夫婦の契りを結びます。この他にも肉体的にも精神的にも変調をきたすときに、さまざまの祈願や、六十歳の還暦、七十七歳の喜寿、八十八歳の米寿など多くの年祝いが行われます。

日本人はこうした年祝いを重ね、また人生儀礼を通してその与えられた生命を益々充実させ、神々とともに平和で喜びに満ちた生活を求めてきたわけのです。



神社 なぜ問答

(その41)

○おまじりのいろは

お賽銭について
教えて下さい。

お賽銭の意味や起源には諸説があります。現在では神社にお参りすると、お賽銭箱に金銭でお供えしますが、このように金銭を供えることが一般的となつたのは、そう古いことではありません。

もともと、御神前には海や山の幸が供えられました。その中でも特に米を白紙で巻いて包み「おひねり」としてお供えしました。

私たちは祖先の時代から豊かな自然に恵まれて暮らし、秋になると米の穂りに感謝をして刈り入れた米を神様にお供えしました。こうした信仰にもとづき、米を「おひねり」としてお供えするようになったのです。しかし、貨幣の普及とともに米の代わりに、金銭も供えるようになりました。

そもそも米は、天照大御神がお授けになられた貴重なものとされ、人々はその大御恵（おおみめぐみ）を受け、豊かな生活を送ることができるよう祈ったのです。現在でも米をお供えする方もいますが、金銭をお供えすることは変わりはありません。

お賽銭箱にお金を投げ入れるところをよく見ますが、お供物を投げてお供えすることには、土地の神様に対するお供えや、祓いの意味があるともいわれています。しかし、自らの真心の表現としてお供えすることなので、箱に投げ入れる際には丁寧な作法を心掛けたいものです。

編集部より

神道についての素朴な疑問等を募集しております。神社本庁教学研究部の協力でお答えします。御質問は紙面の都合上、基礎的な質問に限らせていただきます。質問者名等は掲載いたしません。質問者名等は掲載いたしません。質問者名等は掲載いたしません。質問者名等は掲載いたしません。

七五三

七五三祭は、子供の成長にともない折り目、折り目に神社にお参りして、いつそうの息災成長を祈る行事です。

三歳の男子女子の祝いを髪置、五歳の男子の祝いを袴着七歳の女子の祝いを帯解きなどと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。

なお、平成十八年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

- 三歳 平成十六年生 (かぞえ齢) 平成十五年生 (満年齢)
- 五歳 平成十四年生 (かぞえ齢) 平成十三年生 (満年齢)
- 七歳 平成十二年生 (かぞえ齢) 平成十一年生 (満年齢)

※年齢はかぞえ年でも、満年齢でもかまいません。

※毎日午前九時より午後五時まで受付をしています。



若さの誇り ほこり

友よ 若さの誇りのために

祝福の歌をうたおう

友よ 未成熟の誇りのために

希望の歌をうたおう

おどらぬ胸は老いた胸

湧かぬ血はおとろえた血

おののかぬ魂は眠ったたましい

友よ 若さと未成熟のために

歓呼のさけびを挙げよう

岡田宮新役員

責任役員 望月 康治

総代会理事 藤井 貞視

総代会理事 吉田 正和

総代会理事 平山 緑祐

有川写真館

八幡西区熊手2丁目1番6号
0120-62-2080

岡田宮スタジオ (境内)

0120-620-753

神社挙式プラン

(挙式料・衣装・写真1枚込み)
¥98,250 ~

宮参り・七五三・入園・入学など
(お子様の衣装・着付け・ヘアメイク無料)

レンタルお出かけ衣装
1着 ¥5,000 ~ (お子様に限りです)

撮影料金

- 四切1ポーズ1枚・・・¥10,500
- 四切2ポーズ2枚・・・¥21,000
- 四切3ポーズ3枚・・・¥27,000